



# おおくす



## 一年間、登下校の安心・安全をありがとうございました ～今年度最後の みまもりたい一斉下校～

3月4日(水)、3学期の地区別児童会が開催され、ほとんどの通学班で、団長さん・班長さんが、6年生から5年生へとバトンタッチされました。安心・安全な通学のため、雨の日も、風の日も、雪の日も、下学年のお世話をしつつ、引率してくれた6年生の皆さんに感謝したいと思います。本当に、ご苦労様でした。卒業までの間、6年間通った通学路を記憶に留めながら、5年生の新しい班長さんへの細かなアドバイスをしてもらいたいと思います。

一方、5年生の皆さんは団長さん・班長さんだけでなく、全員が長太小学校の新しいリーダーです。みんなで力を合わせ、支えあいながら、引き続き安心・安全な通学を実施して欲しいと思います。

この日、地区別児童会の後で、今年度最後の「みまもりたい一斉下校」



が行われました。登下校の安心・安全のため、毎日毎日、通学路の要所要所で子どもたちを見守っていただきました。みまもりたいの皆様、主任児童委員・民生委員の皆様、PTA旗当番の皆様、一年間、本当にありがとうございました。おかげさまで、今年度も子どもたち全員が、大きな事故なく学校に通うことができました。心より感謝申し上げます。これからもよろしく願いいたします。

## ルールの確認と、不安解消のために ～6年 生徒指導出前授業～



3月9日(月)、小中学校連携の一環として、大木中学校の水野先生に来校していただき、6年生が生徒指導の出前授業を受けました。6年生は、あらかじめ質問等を送ってあり、今回はその質問に答えてもらう形で授業をしてもらいました。

子どもたちは、中学校の教育過程や学習時間、仲間関係、部活、給食など、中学校生活に様々な不安を持っていましたが、水野先生は、終始気さくに、アンケート結果などを用いながら語り掛けるように話をしてくれました。おかげで、子どもたちの不安はかなりの部分が解消されたようでした。

卒業式が3日後に迫り、6年生は、いよいよ中学校へ進学する日が近づいてきました。残された時間を大切に、有意義に過ごしてほしいと思います。

## 防災の意識を、常に持ち続ける ～3.11防災学習～

3月10日(火)、3学期の避難訓練を実施しました。この日の訓練には、一年間の取組の成果を試す意味もあり、訓練を実施する日時については知らされず、突然襲ってくる地震への対応力が試されました。

2限後の休み時間に、突然緊急地震速報が鳴ると、子どもたちは一瞬、驚いた様子でしたが、放送の声をしっかり聴いて、素早く机の下に隠れたり体を丸めて両手で頭をかかえたりして、頭を護る一次避難を行うことができました。揺れが収まったという連絡が流れると、本や絵本バッグ、赤白帽子等、身近なもので頭を護りながら、落ち着いて運動場への二次避難を行うことができました。

避難の指示が出てから運動場に整列するまでの時間は、2分50秒と、十分満足できる内容でした。南海トラフ地震に備えて、訓練を真剣にやっておくことは防災の基本中の基本となります。これからもこの意識を保ち続けてほしいと思いました。

また、翌日3月11日は、15年前に東日本大震災が起きた日にあたり、学校では犠牲になられた方々に黙とうを捧げるとともに半旗を掲げました。この日、お昼の放送で、6年生の児童会役員さんたちが震災について学んだことを発表してくれ、さらに防災への意識が高まりました。

ご家庭でも地震への備えを確認していただくとともに、休日や放課後、深夜など、学校外にいるときに地震が起きた場合、どのように行動するのかを家族で話し合っていたらと思います。



## とっても楽しい本の世界を あいがとうございました ～今年度最後の 読み聞かせボランティアの日～



3月12日(木)、今年度最後の読み聞かせがありました。長太小学校では、長年にわたり、読み聞かせボランティアの皆様にお世話になり、たくさんのお本に触れる機会を与えてもらっています。子どもたちは、楽しい本の世界を味わうことのできる読み聞かせの日を毎回、楽しみにしています。

読み聞かせは、子どもたちと本を結び付けるためにとても大きな役割を果たしてくれています。

読み聞かせの声は、紙の上に並んでいる無機質な文字に、人の持つ優しさや温かさ、喜びや悲しみといった様々な感情を与え、心を宿した言葉として子どもたちの耳に届きます。これが繰り返されると、本に書かれている文章は、単なる文字でなく、血の通った人間の考えや気持ち、願い、雰囲気、様子など、あらゆるものを表現していることが感覚的にとらえられるようになります。やがてそれは、子どもたちの頭の中で、イメージとなって膨らみ、広がり、豊かな想像力や思考力、読解力へとつながっていきます。

幼少期にたくさん読み聞かせをしてもらった子は、本との繋がりが自然と生まれています。面白い本や楽しい本、興味深い本に出会うと、今度は自分で読んでみよう、ほかにも楽しい本がないか探してみようと、自分から本を求めるようになります。するといつの間にか、本に親しみを持ち、本が身近なものとなり、本が大好きな子に育ちます。

子どもたちと本との素敵な出会いがありますよう、これからも、読み聞かせボランティアの皆さんにお世話になります。一年間、楽しい読み聞かせをありがとうございました。来年度もよろしくお願いいたします。